

<p>会報 第58号</p>	<p>Mt. Iwaki Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2012年9月20日発行 岩木山を考える会 会長 阿部 東</p>
--------------------	--	--

## 「第33回東北自然保護の集い・青森」開催のご案内

テーマ：3. 11後の自然保護に私たちはどう向き合うか

第33回「東北自然保護の集い」は、津軽の名峰岩木山を遠くに望む、津軽富士見湖～廻堰で開催されます。17世紀に出来た人造湖である津軽富士見湖は、ヘラブナをはじめ淡水魚の宝庫で一帯には155種に及ぶ野鳥が確認されています。又、湖には、青森県産のヒバで造られた全長300メートルの日本一長い三連太鼓橋が架かっています。

東北自然保護の集いは1980年に山形県朝日村で第1回大会を開催し、途切れることなく各県持ち回りで開催されています。この間、多くの問題を克服しながら東北地方が抱えるさまざまな課題に取り組んできました。

東日本大震災と福島第一原発の事故により、東北地方太平洋側の自然環境は巨大な攪乱を受け、いまだに収束を見ていません。一方、自然エネルギーへのシフトの結果、風力発電などの開発計画による東北地方全体の自然破壊が危惧されます。

今回の青森大会では講演を行わず、各県の自然保護運動が3. 11後抱えることになった諸課題を、広く交流し深めあうことにしました。基調報告として、青森県内の自然保護運動が抱えている課題を2つ設定します。一つは、仏沼・ラムサール条約登録までの道筋と現状について、もう一つは、青森県内における風力発電の現状と課題です。

基調報告後、各県・各団体から報告をして頂き、テーマに沿った議論と交流をしたいと考えています。どうか、お知り合いの方にお声をかけていただきながら、多くの皆様の参加をお願いいたします。

2012年6月 「第33回東北自然保護の集い・青森」実行委員会  
事務局団体 岩木山を考える会会長 阿部 東

### ●開催要項●

主催団体：東北自然保護団体連絡協議会

主管団体：「第33回東北自然保護の集い・青森」実行委員会

期 日：2012年11月3日(土)～4日(日)

会 場：福祉健康保養センターつがる富士見荘(TEL:0173-22-3003)

日 程：11月3日(土)

12:30～13:30 受付

13:30～13:40 開会行事

13:40～14:20 基調報告1「仏沼・ラムサール条約登録までの道筋と課題」

14:20～15:00 基調報告2「青森県内における風力発電の現状と課題」

15:10～17:00 各県からの報告(福島・宮城・岩手・山形・秋田・青森)

17:00～18:15 休憩・入浴

18:15～ 夕食・交流会

11月4日(日)

09:00~11:30 各県からの報告・全体討議

11:30~11:45 閉会行事 解散

- 参加費:①つがる富士見荘宿泊参加の方(交流会費及び資料代含む) 12000円  
②集会のみ参加の方(つがる富士見荘宿泊なし・資料代) 500円  
③集会・交流会参加の方(つがる富士見荘宿泊なし・資料代含む) 5000円

- 参加申し込み:①締め切り 2012年10月8日(月)  
②様式 同封した申込用紙に記入し「申込先」に送付或いはFAXして下さい。  
③参加費 下記の金融機関口座へ締め切り日までに払い込んで下さい  
ゆうちょ銀行 記号 18490 番号 8115511 名義 土岐修平  
領収証の必要な方には、当日受付で発行致します。

◆問い合わせ先◆

事務局:竹浪 純(岩木山を考える会事務局長)

住所:〒036-8162 青森県弘前市安原3丁目3-11

TEL 080-5229-6076 FAX 0172-88-6656 E-mail [takenami@coral.ocn.ne.jp](mailto:takenami@coral.ocn.ne.jp)

◆申込先◆

〒036-8103 青森県弘前市川先3丁目8-3 土岐修平 宛

\*\*\*\*\*  
\* 東北自然保護の集い参加費の一部援助についてのお知らせ \*

今回の東北自然保護の集いに参加された岩木山を考える会会員の方には、参加費の一部を援助することになりました。援助額は下記の通りです。

- ①宿泊参加の方→2000円助成(自己負担10000円)  
②集会のみの参加の方→500円助成(自己負担0円)  
③集会・交流会参加の方→1000円(自己負担4000円)

援助分は、当日会場でお支払いします。(岩木山を考える会事務局)

## 風力発電問題に関する動き

1)5月21日(月)19:00~20:30、弘前市民参画センターに於いて、「つがる南風力発電事業に係る説明会」が、当会から会長、幹事及び事務局長の8名、弘前野鳥の会からの参加5名の計13名の参加者で行われました。今回の説明会は、実施事業者である(株)リーテック側から、現在計画している「つがる南風力発電事業」に関して環境評価方法書について資料に基づく説明をした上で、こちらから意見、調査方法などへのアドバイスをもらいたいということで開催されました。(株)リーテックは、当初、岩木山麓に風力発電施設を計画していた会社です。岩木山麓への立地に関しては、風力調査を行った結果、風が弱いということが明らかになり、現在、計画は中断しているとのことでした。

説明会は、参加された野鳥の会の方々が積極的に発言し、また当会の阿部会長も昆虫の調査箇所が大雑把であると指摘するなど、質問や調査データ不足箇所の指摘、調査方法への追加の要望などが途切れることなく出されました。会社側は、調査は後1~2年かけて行い、きちんとした結果を出したいという意向を示していました。

2)現在ベンセ沼の向いに風力発電施設が1基立てられています。これも(株)リーテックによるものだということがありました。すでに手続きは終了し、来年稼働だそうです。ソフトバンクが計画している十三湖以南の50基の

風力発電施設の建設に関しては、大規模施設のため青森県には許認可の権限がなく、農水省が窓口だそうです。

3)現在、実施事業者、電力会社、行政機関等に対し、県内の自然保護団体と連名で要請文を提出する準備が進められています。内容は、拙速なアセスメントで地元の声を見殺しにして風力発電設備を作ってしまうのはどうなのか。風力発電に反対しているのではなく、丁寧な、適切なアセスメントを行って設置してほしいという主旨となっています。

## 2012年度長平湿原植物調査報告

7月8日(日)8:30～ 参加者5名

昨年(6月19日)に比べ、3週間ほど、調査の日程を遅らせた。長平登山道は、倒木等はしっかり片付けられてスムーズに歩けた。珍しいとされるミドリユキザサをはじめ、ツマトリソウ、ハクサンチドリなど多数の花との出会いがありました。

湿原では、白いサギスゲが目をつけた。トキソウはピンク色の蕾が見られ、開花は始まったばかりで、一帯が緑色の中できれいだった。昨年は32種の植物を確認。今年はそのうちの25種を認めた。新たなものを15種認めた。沼地ではブルーに光るイトトンボが2匹。幻想的な水辺空間となった。来年の調査も楽しみにしたい。

藤原 裕貴子 記

## 岩木山講座①岩木山と桜林

2012年5月6日(日)10:00～13:00 参加者:38名

講師:水沢忠明氏・福士寿一氏

岩木山神社の見学は、あいにく小雨の中決行された。今回は、会員の特に郷土史にも詳しい水沢先生(世界史)、民族や郷土史にも通じている福士先生(地理学)の説明で、岩木山神社を見学した。お二人の講師のおそらく他では聞けないような奥行きのある説明に参加者一同得心されたことと思います。途中植物の観察、岩木山神社の歴代宮司の墓を見学し、最後に、丑、寅年生まれの人々の一代様、求聞寺を見学して解散となった。

皆さん、鳥居に2種あり、それが岩木山神社にもあることをご存じですか?今回の参加者はこのことをしっかり学習されたはずです。

阿部 東 記

### ・岩木山講座①岩木山神社と桜林に参加して

初めての観察会への参加でしたが歴史好きの私にとっては、岩木山神社の話がとっても興味津々でありました。奥の院は今日、初めて見ましたが色鮮やかにぬられ細かな彫刻(?)など初めて観られて日光の本院を観に行きたい気分になってしまいました。また、求聞寺は私の干支の寺院なので特に興味がありました。寺の由来など知りたかったりしました。植物講座には「資料」があったら良かったと思います。名前等知りたいものですから…。また、次にも参加したいと思いますので、宜しくお願いします。

小笠原 邦子 記

私の趣味は山スキーです。退職(2002年)後、天候の落ち着く2月頃から、岩木山山頂を数回目指し、厳冬期の頂上に3回程立つことができました。この時の頂上からの眺めは、夏の眺めとは一変し、雪の下でじっと耐える津軽平野の姿は荘厳の一言です。登り4時間、下り30分の至福の時を過ごし、スキーをはずしながら岩木山頂上を振り返ると、岩木山が「またね」と言っておるようです。このような自分の行動の中から、ふるさとの山にえも言われぬ感情

が湧き出、この会を知り、入会しました。

今回の岩木山講座は、岩木山の麓の百沢寺、求聞寺の生いたちから神仏混合時の信仰様式に触れることができました。また、弘前藩を治めた津軽家の殿様が、天台宗、真言宗、そして神道を取捨選択して、中央政権との関わりを保っておったことを垣間見ることができました。ありがとうございました。 齋藤 雪雄 記

## 岩木山講座②弥生スキー場跡地観察会・生物調査

2012年6月17日(日) 10時～13時

弥生いこいの広場隣接地(スキー場跡地)

参加者:32名 天候:曇り、時々雨

この観察会・調査活動は去年に続き2年目です。継続的な調査でいろんなことが見えてきています。来年度も引き続き行っていきますので、みなさん、是非ご参加下さい。

<様子>「弥生スキー場跡地問題を考える弘前市民ネットワーク」とウォッチング青森の共催で、去年に引き続き実施しました。当日は、おおむね10名ずつ、3つの調査班に分かれて行動しました。

植物班:道沿いに発見した種名を記載しました。前日のウォッチング青森会員による事前調査も含め202種を観察できました。雑木林の下草が少ない林床部ではラン科など珍しい植物も見られました。ロープ塔の上部西側は、過去に利用されていた部分ではその痕跡が植生にも見られ、食用のイチゴやルピナス、スズランなど観賞用に植えられていたと思われる植物が観察されました。表土がはがされた中央部分は、多様な植生の遷移が観察できます。

動物班:前日にトラップを仕掛けましたが、夜から朝にかけて雨が降ったため、昨年に比べ観察数は少なく残念でした。ニホンザリガニ、ハッチョウトンボは観察できました。モリアオガエルの鳴き声も観察できました。

毎木班:3つのエリアに設定した標本木30本の胸高周囲径を測定しました。エリアによって成長度の違い、種による違い、個体間の競争などが徐々に見えてきています。

参加者より、植物の成長が旺盛で昨年から更に復元が進んだようだ。この場所が20年前はどうだったのかを知って貰った上で観察をすれば、見方が違ってくるのでは。などの感想が出されていました。終了後、豚汁で昼食を取り、終了しました。 竹浪 純 記

### ・岩木山講座②弥生スキー場跡地観察会に参加して

2012年6月17日の「弥生スキー場跡地観察会」に参加し、いろいろ教えられました。私は毎木調査のグループに入り、木の太さを測定する作業を見せてもらいました。「木の太さの測定は、高い方の根の地面から135cmの高さでやること」、「森の中で伸びて日光を確保した木は太くなるだけだ」など、初めて聞く話ばかりでした。

スキー場跡地を歩くと、森だけでなく、沢や湿原、コケや草が生えてきたコンクリートなどがあり、場所により環境に違いがあることがわかりました。それが多様な生き物の生活の場になっているし、今後も跡地の自然は変化していくとも教えられました。ニホンザリガニやホンドアカネズミも見られてよかったです。

16年前、ブルドーザーで土が、剥き出しにされた弥生スキー場跡地は、思っていた以上の力強さでその自然を回



## 岩木山講座③岩木山山頂付近観察会

2012年8月29日(日)9:00～14:30

参加者22名

岳地区のミズバショウ沼公園に集合。5台の車に分乗し、スカイライン8合目へ。新設された八合目休憩所の裏側にある岩木山に唯一のアオモリドマツを観察した。目印に赤い布が付けられている。

観察会は3つの班に分かれて行われた。今回は鳥海山方面が対象地。足に自信があまりない方8名はリフト利用。鳥海山コースは、登山道を草木が覆い、一般の方はとても歩けない状態。シラオイハコベという微少な花に出会え、貴重な学びができた。当日資料にあった16種の植物の他にヤマハハコ・ヒメアカバナ・ハリブキ(赤い実)・ナンブアザミ・ミネヤナギ・ミヤマハンノキ・オオバタケシマラン(赤い実)等観察できた。



シラオイハコベ

ミネザクラやナナカマドの巨木は、登山道がヤブ状態、露が滴る状況で、参加者に紹介できなかった。それらは高地で風雪に耐え矮小であることを記しておく。

最後に、今回放射線量の測定を3ヶ所で行ったので結果を報告します。

スカイライン八合目0. 20。リフト山頂0. 30。鳥海山0. 15。(単位は  $\mu$  sv/h)

昨年の種蒔苗代へのコースの華やかな花々の観察会に比べ、地味な花たちだった。それは岩木山の別な側面について参加者の皆様と学ぶ機会となった。

藤原 裕貴子 記

### ・岩木山講座③岩木山山頂付近観察会に参加して

このたび、「岩木山を考える会」に再加入した福士寿一です。岩木山をめぐる信仰・民俗を調べております。これから皆さんに少しでも貢献できればと思っております。

7月29日の「岩木山山頂付近観察会」に参加して、可憐な高山植物の小さい花々が、健気に咲いているのを目にし、本当に感動しました。また、竹谷さんの懇切丁寧な説明でよく分かりました。とくにシラオイハコベの白い花が印象に残っております。

他に、今回のことで、三つのことを書きたいと思います。集合場所の「ミズバショウ沼公園」についた時、ふと思い出しました。この公園が計画された時、当時の県、岩木町ではラベンダーを植える計画がありました。しかし、ミズバショウなどの湿地植物の環境維持と周囲の景観の調和を考えていた阿部東会長は、高校同期の県の農林部長にラベンダー畑を止めた方が良いのではないかと電話しました。その後、弘高に、県・岩木町の関係職員が御出になり、話し合いました。私も同席しました。現在の公園の形態には阿部東会長の考えを大いに反映していることを皆様にお知らせします。

二つめは、鳥海山山頂付近の道のことです。久しぶりに山道を歩いたものにとっては大変でした。観察会なのではなく。個人で鳥海山の頂上に行こうとすれば大変だと思います。もう少しで崩れそうです。山道の上や側の木を少し払ったりすることは、自然保護上望ましくないのは分かっているが、調和が取れた形で道が確保できれば良いのと考えています。

三つめは、八合目終点駐車場のアオモリドマツがあることです。阿部会長が現地で説明されたように、昭和43年発行の品川弥千江著の「岩木山」には、数株、阿部会長が牧田肇先生と調査した10数年前は3本、現在は1本になってしまいました。日本海側の飯豊、朝日山地、出羽三山その他の山岳では、亜高山性針葉樹林は、例外的な小林分(小森林)を別としては殆ど成立しないと言う。月山のバラモニ沢や岩木山の駐車場近くのアオモリドマツはその小林分と考えてもいいのではないかと考えております。

福士壽一 記

## ・この花、なんという花？

岩木山山頂付近観察会(7月29日)。ハイキング程度の山歩きは好きだが、「岩木山は急すぎる」という印象が私の気持ちを支配して、登る回数は多くはない。今回は、花の名前を少しでも知りたいとの思いで参加。

頂上は雲で見えない。集合場所のミズバショウ沼公園付近はあんなに暑かったのに、八合目駐車場は、長袖を着ていても、動いていなければ寒い。この気温の差。

岩木山に一本しかないというアオモリドマツを覗いてから登山口へ。登り口付近はトリアシショウマの群落と思ったら、ヤマブキショウマだという。登山道脇の花もたくさん教えてもらったのに、私の記憶にあるのは、ノリウツギ、ハリブキ(これは実が鮮やかな赤で覚えやすい)、オトギリソウ、ミヤマホツツジ、ミヤマトウバナぐらい。覚えられないのは、年のせい？記憶力が弱いせい？

9合目でリフト組と合流。目玉のシラオイハコベ(エゾフスマ)を求めて鳥海山へ。マルバシモツケや巨大に育ったエゾニューが目につく。案内者が立ち止って「これがシラオイハコベ」と指差す。草藁の中に、可憐な小さな白い花がひっそりと咲いている。目立たない。私の観察力ではその特徴をつかみきれなかった…。

天候の関係で早めの切り上げになったが、花の名称を知るという点では少しは前進。楽しい一日でした。

黒沼 利三 記

## 「弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会」の経過・概要報告

会報56号(12月22日発行)で、「弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会」の発足と、当会会長阿部東と、私の2名が懇談会メンバーとして参画することになった旨、報告しました。

その後、8月までに6回の懇談会を積み重ねてきましたので、その経過・概要を報告します。

6回の会議のうち5回は船沢公民館で夜6時半から8時半頃まで開催され、1回は、5月末日に現地調査を行いました。

通常、行政が設置し市民の意見を聞く「懇談会」の類は、あらかじめ市が用意した企画案に対して、参加者が意見を述べるという形が一般的です。こういうパターンでは、若干の修正があったとしてもあらかじめ市の企画案が通っていくようです。

今回の懇談会の大きな特徴は、市の原案が「ない」ということです。懇談会メンバーが白紙から利活用の方策案を作り上げるわけです。そういった意味で、懇談会メンバーに課せられた責務は大きいと言えます。

懇談会は、各自のイメージ、期待、要望、問題意識、などを出し合うところから始まりました。出し合う中で、思いの重なる部分、食い違う部分などが鮮明になっていきました。この先どうなることや、と危惧もしましたが、考えてみればそれはやむを得ないことだったと思います。地元で農業を営んでいらっしゃる方、PTAの会長さん、町会長さん、樹木医の方、公民館の館長さん、などいろんな立場の方々が一堂に会しているのですから。地元の方々の中に現地に足を運んだことのない方もいらっしゃったのです。

第3回目(2月)の懇談会で、現地の町会長や元公民館長など長年関わってきた方々が4名参加し、思いを述べて

くださいました。共通していたのは、弥生跡地の環境への誇りと、回復してきた自然を大事にしながら利活用方策を考えてほしい、ということでした。徐々に、懇談会メンバーの思いが一つの方向に向かっているのが感じられてきました。

懇談会の方向性が明確になったのは、第4回目(5月)の現地調査です。阿部会長が参加できなかったため、当会幹事の竹谷清光さんが代理で参加しました。竹谷さんのよくわかる解説に耳を傾けながら、一同歩きます。伐採されていないナラの林に入り込んでみました。ひんやりとする空間、腐葉土でふかふかの地面に、一同感動。表土がはぎ取られてしまった跡地中央部分は、今は湿地帯が続いています。長靴を用意してこなかったため足を濡らしてしまった方もおりました。終了後、各人から感想が出されました。自然が回復している、あまり手を加えないで散策路を造ってはどうか、子供たちが遊べるようになればいい、実際に見てみるとカネをかけないで活用できるのではないかと思った。など、弥生ネットや私たちがこれまで観察会を続ける中で、出されていた意見と同じような感想が出され、跡地利活用の方向性が徐々に明確になってきたことを実感しました。

第5回(6月)、第6回(8月)の懇談会で、意見の整理が図られ、リーダーよりおおまかな利活用のゾーニング(案)が示されました。ゾーニングメモには、次のようなキーワードが並んでいます。「遊歩道・休憩場所・広場・入口・体験・観察・工作・植樹・管理・不法投棄・安全対策・案内ガイド・便益施設・森の復元」。ハコモノ中心の整備ではなく、弥生跡地の自然の復元を見守りながら、自然を利用し活用できる「市民の森づくり」というイメージが固まってきました。

懇談会では、今年中に弥生跡地のおおまかな利活用計画案をまとめる予定です。この計画案に基づいて、弘前市が具体的な図面の線引きをして、議会に諮ることになることでしょうか。弥生ネットや岩木山を考える会が、懇談会から出てくる利活用計画について議論を深め、弘前市に意見を述べる機会はまだまだありそうです。

竹浪 純 記

2000年頃のスキー場跡地



2011年夏のスキー場跡地



## \* 今後の岩木山講座の日程

### 岩木山講座⑤二子沼の紅葉とキノコ汁

概要: 二子沼は岩木山を代表する紅葉の美しい所です。ブナ帯の中で光がよく当たる沼があるからです。2月の写真展も楽しみです。今年最後の野外活動で、山行のしおさめですので、是非参加して下さい。岩木山の花々は終わりになっているでしょうが、キノコも菌類の花です。キノコが期待出来るかもしれません。

日 時: 10月28日(日)9:30~14:00

集合場所: 長平駐車場

経 路:車に分乗し、西岩木山林道を移動→徒歩で、ブナ林の中を観察・散策しながら二子沼へ→二子沼及び  
周辺を観察・散策→車を停めた所まで戻り、キノコ汁で昼食→解散  
持 ち 物:昼食・雨具・歩きやすい装備・箸・キノコ汁用の器  
参 加 費:500円(保険・ガソリン代・キノコ汁代)  
責 任 者:阿部 東 申し込み先:0172-36-4205  
定 員:30名 申込締切日:10月23日(火)

## 岩木山講座⑥「岩木山北麓の石造物」

概要:石造物の石の産地、石造物の年代とその特徴から岩木山を巡る船沢あたりから十腰内を経て、鱒ヶ沢地区までの歴史的な考証をします。

講 師:佐藤 仁先生(元高等学校教諭)

講師の横顔:交通史(鉄道史を含む)の研究、石造物の研究でご活躍。現在も研究を勧めるかたわら、南部町などいくつかの遺跡発掘の仕事もされ、青森県の先史研究の重要なメンバーである。これまでNHK文化センターの講師を10年続けられて居る。

日 時:12月9日(日)14:30~16:10

場 所:弘前市民参画センター第2研修室

持 ち 物:筆記用具

### \* 会員の皆さんへお願い \*

「岩木山を考える会」の会員継続手続きをお願いします。会費納入は同封の振込用紙でお支払いいただくか、最寄りの幹事までお届け下さい。

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

### <編集後記>

暦の上ではとっくに秋なのに、今年は異様なまでの残暑が続きました。我が家のりんごも収穫期に入りました。ところが今年は残暑が長引いているせいでりんごに色が入りません。一昨年も猛暑で色づきが悪かったのですが、今年はそれ以上です。昨冬の大雪といい毎回の様に異常気象について書いているような気がします。本当に異常なかもよく分からなくなってきました。

さて、先日テレビ撮影のアルバイトで白神山地に入りました。雁森岳という白神の奥地です。白神マタギ舎の工藤さんによると6年ほど前にも一度来たがそのときよりかなり藪がひどくなったそうです。以前は雁森岳付近から白神山地が一望できたのに今は藪でほとんど見えません。白神の自然もどンドン移り変わってきているようです。ということは岩木山の自然環境も変わってきているのでしょうか。 小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第58号(2012年9月20日発行)発行/岩木山を考える会/会長 阿部 東

〒036-8336 青森県弘前市栄町4-12-2/電話 0172-36-4205 事務局長 竹浪 純/電話080-5229-6076

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会